

多発性骨髄腫
DVMP療法(2-9コース目)

コース目

患者ID: @PATIENTID

患者氏名: @PATIENTNAME

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)
HEIGHT01_D	HEIGHT01_D	#VALUE!

性別 TIENTSEXN

年齢 @PAT 歳

投与スケジュール: 1コース: 42日間

使用薬剤: ダラツムマブ: ダラツムマブ 100mg/5mL/V、400mg/20mL/V
ボルテゾミブ: ボルテゾミブ 3mg/V
メルファラン: メルファラン錠2mg
プレドニゾン: プレドニン錠5mg

注意: 適正使用ガイドに準じる

※ Infusion Reaction に要注意

ダラツムマブ投与により、アフラクシ、鼻閉、咳嗽、悪寒、気管支痙攣、低酸素症、呼吸困難等の Infusion Reactionが報告されており、多くの場合は、初回投与時に発現が認められたが、2回目以降の投与時にも認められている。ダラツムマブ投与中は、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合は、ダラツムマブの投与を中断又は中止し適切な処置を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。

※ 呼吸器疾患等の既往がある場合は、ダラツムマブ投与後処置として必要に応じて気管支拡張薬、吸入ステロイド薬等の投与を考慮すること。

※ ダラツムマブ調製後15時間以内に投与を終了すること。

※ 骨髄抑制があらわれることがあるので、定期的に検査を行うこと。

※ 末梢神経障害、間質性肺炎の定期的チェックすること。

※ 患者の状態に合わせてデキサメタゾン適宜減量できる。

投与量:

薬剤	投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
ダラツムマブ	16 mg/kg	#VALUE!		1, 22
薬剤	投与量	計算値	1日投与量(mg)	投与日
ボルテゾミブ	1.3 mg/m ²	#VALUE!		1, 8, 22, 29
メルファラン錠	9 mg/m ²	#VALUE!		1~4
プレドニン錠	60 mg/m ²	#VALUE!		2~4

<< タイムスケジュール: 開始時刻 >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1 1月1日 (火)

点滴前内服 ① カロナール錠 200mg 4T 点滴直前に内服
② レスタミンコーワ (10mg) 5T 点滴直前に内服

内服 メルファラン錠2mg 0錠

0時45分 ① 生理食塩液 50mL + デキサート 19.8mg

15分で点滴静注

1時00分 ② 生理食塩液 100mL

60分で点滴静注

2時00分 ③ 生理食塩液 500 mL + ダラツムマブ 0mg .m/

※初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる。

※初回及び2回目投与時にinfusion reactionが認められた場合、初回及び2回目投与時の投与速度を参考に調節して下さい。

0.2µmのフィルター一体型輸液セットを使用する

※投与速度は患者の状態を観察しながら段階的に上げること。

※下記は1コース目の3回目以降の投与(初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合)

↓ 100mL/hrで1時間点滴静注

↓ 患者の状態を観察しながら、投与開始1~2時間は150mL/hrで1時間点滴静注

↓ 患者の状態を観察しながら、投与開始2時間以降は200mL/hrで点滴静注

④ 生理食塩液 50mL

フラッシュ

8時00分 ⑤ 生理食塩液 50mL + ボルテゾミブ 0.0mg

※調製時は、生理食塩液20mLを抜き、全量を30mLとする。

全開(3~4分)で点滴静注

8時15分 ⑥ 生理食塩液 50mL

フラッシュ

Day2, 3, 4 1月2日 (水) 1月3日 (木) 1月4日 (金)

内服 メルファラン錠2mg 0錠

内服 プレドニン錠5mg 0錠

Day8 1月8日 (火)

0時00分 ① 生理食塩液 50mL + デキサート 6.6mg

15分で点滴静注

0時15分 ② 生理食塩液 50mL + ボルテゾミブ 0.0mg

※調製時は、生理食塩液20mLを抜き、全量を30mLとする。

全開(3~4分)で点滴静注

0時30分 ③ 生理食塩液 50mL

フラッシュ

Day22 1月22日 (火)

- 点滴前内服
- ① カロナール錠 200mg 4 T 点滴直前に内服
 - ② レスタミンコーワ (10mg) 5 T 点滴直前に内服
- 0時45分 ① 生理食塩液 50mL + デキサート 19.8mg
15分で点滴静注
- 1時00分 ② 生理食塩液 100mL
60分で点滴静注
- 2時00分 ③ 生理食塩液 500 mL + ダラツムマブ 0mg .m/
※初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる。
※初回及び2回目投与時にinfusion reactionが認められた場合、初回及び2回目投与時の投与速度を参考に調節して下さい。
0.2µmのフィルター一体型輸液セットを使用する
※投与速度は患者の状態を観察しながら段階的に上げること。
※下記は1コース目の3回目以降の投与（初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合）
↓ 100mL/hrで1時間点滴静注
↓ 患者の状態を観察しながら、投与開始1～2時間は150mL/hrで1時間点滴静注
↓ 患者の状態を観察しながら、投与開始2時間以降は200mL/hrで点滴静注
- ④ 生理食塩液 50mL
フラッシュ
- 8時00分 ⑤ 生理食塩液 50mL + ボルテゾミブ 0.0mg
※調製時は、生理食塩液20mLを抜き。全量を30mLとする。
全開(3～4分)で点滴静注
- 8時15分 ⑥ 生理食塩液 50mL
フラッシュ

Day29 1月29日 (火)

day8と同様に行う

REFERENCE

M.-V. Mateos, M. A. Dimopoulos, M. Cavo, et al: N Engl J Med 2018;378:518-28.
Daratumumab plus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone for Untreated Myeloma
化学療法プロトコール審査委員会 迅速審査承認: 2019年11月8日